

2022年12月19日(月)


老球の細道706号

敵は、我とコロナにあり！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

明智光秀が京都本能寺で織田信長を奇襲した時に発した言葉が「敵は本能寺にあり」だった。最近になってはプロ野球の名将、故野村克也監督が「敵は我にあり」と選手達に教えていた。「当面の敵」と「永遠の敵」をあらわす有名な言葉である。

流行には流されないでわが道を行くことを良しとしてきたが、ここに来て負けてしまった。私自身が新型コロナウイルスに感染してしまったのである。今まで2年間、細心の注意をはらいながら生活してきた。副作用の強いワクチン接種を早々と5回済ませ、免疫力を下げないためにも早寝、早起き、早酒を心得、一日60分の有酸素運動と筋力トレーニングを欠かさず行ってきた。だから「新型コロナには絶対かからない」と自信を持っていた。が、どこで、なぜ、どのようにして、コロナが私の身体に侵入したのか。テレビドラマ「松本清張サスペンスシリーズ」の犯人を解明するよりむずかしい。

ドラマは最初に孫息子が発熱してから始まった。当時幼稚園がコロナウイルス感染のため休園を余儀なくされていたので、身体を持って余っていた孫息子と連日近くのため池に散歩に行き、そこでドジョウとアメリカザリガニの子どもを捕まえて遊んでいた。行き帰りには孫を背負いながら昔懐かしい「北風小僧の寒太郎」を歌いながら爺孫の固い絆を結んだつもりだった。そこから三密による感染が起こったのか？

私は5回もの苦しいワクチンを接種している。それなのにワクチンが楽チンでなくて悪チンになってしまうとは。ワクチン接種については最初から「現在のオミクロン株に完全に対応できるとは限らない」という触れ込みだったので、半信半疑であった。しかし、御上が推奨するのだから大丈夫だろうと信じていた。私が甘かった、馬鹿だった。新潮新書の『馬鹿と無知』という本に「能力の低い人は自分を過大評価する」という一文があった。まさに私であった。

孫の感染が判明した翌日、「濃厚接触者」の告知を受けたが、翌日すぐに抗原キッド検査で私も「陽性」であることが判明した。孫が先だったのか私が先だったのか、鶏と卵の話で証明不明である。孫は一日で回復、私は喉の不調が多少あるだけでいたって普通。そのようなわけで現在7日間の家庭謹慎中である。この間にあったミニの県大会、大会中の会津地区高校新人大会が感染で観戦できないという不都合な真実に見舞われている。

ミニの大会においてもコロナ感染のために出場できない選手やチームがたくさんあった。高校の大会も大会前にコロナのために十分な練習ができなかったという話もたくさん聞いている。そのために思うような結果を得られなくて悔しい思いをしている人たちがどれほどいるか。戦わずして勝敗を決することほど残念なことはない。理不尽なコロナ、不都合な真実、厳しい現実に対してリセットして、次なる試練にリベンジしてほしい。

運よく各大会は開催されたが、まだ、敵は油断する我が心と収束しないコロナにあり。